

光といのち

第98号
2016年1月1日発行

発行所
真宗大谷派勝善寺
〒299-2214

千葉県南房総市二部1344
電話 0470-57-2657
FAX 0470-57-2290

メール info@syozenji.or.jp
URL http://syozenji.or.jp/
住職 釋孝昌(井上孝昌)

謹賀新年

本年も、念仏申す生活を、共に歩みましょう。

寺族一同

題字下の言葉は、報恩講の終わった翌日に朝のお勤めで拝読する『御文』にあります。

「細々」は、「再々」のことだと思います。

蓮如上人は、「たびたび聞法して信心の溝を浚う念仏申す生活をしなさい」と私たちに仰っているのです。

「邪見憍慢悪衆生」と『正信偈』（赤本13頁）にあります。

「邪見」は、自分本位に物事を見ること。「憍（驕）慢」は、傲（おご）り高ぶること。「悪衆生」は、私たちのことです。

法語
細々に信心の
みぞを浚（は）らえて、
弥陀の法水を
流（な）せ。

修正会

一月二日（土）
十時〜十一時半

「正信偈」をお勤めし、
法話を聴聞します。

念仏申す生活を

礼拝（らいはい）の生活

毎日欠かさずご本尊に對面しよう。
お内仏のお莊嚴を整え、お給仕を正しくしよう。

正信偈をおつとめし、教えの言葉に触れよう。

新しく家庭をもつたら、必ずご本尊をお迎えしよう。

聞法（もんぼう）の生活

念仏の教えを聞き、同朋を見いだそう。

月に一度は法座に参加しよう。
報恩講をはじめ、お寺の行事に積極的に参加しよう。

正信（しょうしん）の生活

迷信に惑う私を解放しよう。
念仏をよりどころとして生きる道を聞き聞き、占いや靈信仰と訣別（けつべつ）しよう。

帰敬式を受け法名をいただき、真宗門徒として歩みはじめよう。

教化実践四項目

- 一 お内仏に正しいご本尊を安置し、お莊嚴を正しくしよう。
- 二 塔婆を建てることはやめよう。
- 三 位牌を廃し、法名軸に改めよう。
- 四 法名に信士・居士などの位号をつけるのはやめよう。

報恩講（十一月二十一日）

三連休初日の小春日和ということもあり、大勢のご門徒が参りくださいました。

担当地区の皆さん、世話人の皆さん、同朋会員の皆さん、準備や運営などにご苦勞様でした。

報恩講は、ご門徒が主催する真宗寺院の最も大切な法要です。

おかげさまで法義相続を例年のごとくお勤めすることが出来ました。

今回の報恩講運営のために寄せられた御懇志は、156名の方々から74万3000円ありました。また、お花やら餅米をお寄せいただきました。

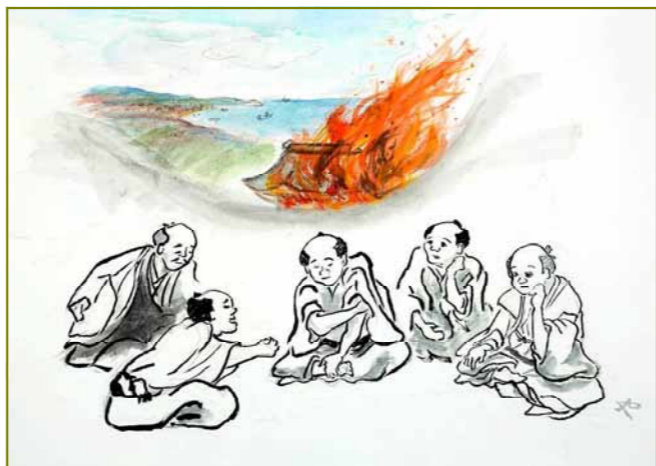
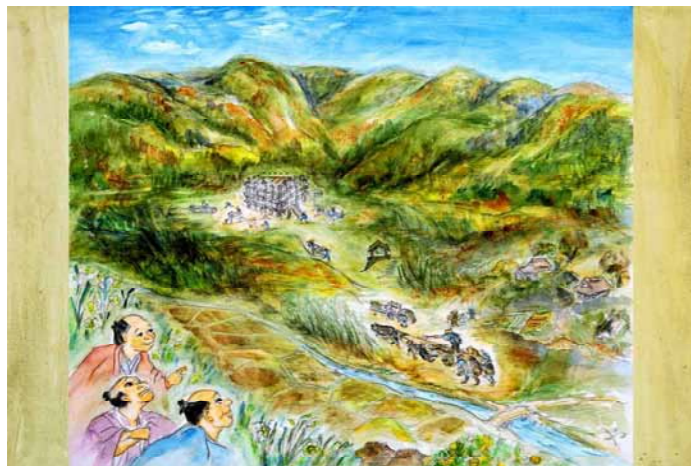
剰余金33万3954円は、仏具等の購入のために使わせていただきます。

皆さま、有り難うございました。

今回は、法要の前に、感話ではなく、紙芝居「勝善寺の飛び石」を、当番地区の門徒でもある朝倉淳子さんに上演していただきました。

（紙芝居を2・3ページに掲載しました。ご覧ください。）





勝善寺の飛び石

脚本 鈴木勇太郎
絵 坂本康子
編集 NPO法人エミューゼ

寺を訪れ「飛び石」伝説を聞き感動した方々により、この紙芝居ができあがりました。
各所で演じ、子どもたちにも伝えられているそうです。

住職記す。

むかし、むかし、老師と呼ばれる、えらい坊さんがおりました。老師は山からおりて、村人たちに、ありがたい、みほとけの慈悲の心をときながら、
村人たちのこまる川には橋をかけ、道のないところには道をつくり、また、病人には薬をあたえ、身寄りのない老人には、手あつい看護をされましたから、村人たちは、老師のことを「生き仏さま」と呼んでそんけいしていました。

しかし、江戸時代の少し前の天正八年（一五八〇）に峰の寺が火事になったため、老師は山のおもとの宇、天正屋敷に飯堂を建てて、一時、住むことになってしまいました。
それを聞いた村人たちが大ぜい集まって、相談しました。そして、「生き仏さまの家を建てようじゃないか」と、

お金を出し合って、富山の北のおもとの台地に工事を始めました。
くわをふるう人、土を運ぶ人、巨大な松や檜の材木が、遠くの村々からも、たいへん、たくさん寄進されました。
仕事を手伝う人数も、だいに多くなってきました。
まず、城普請のように高い足場が組まれて、しき石が置かれ、柱が立ち、屋根がふかれます。



村じゅうの人々が力を合わせ、数えて三年目に新しい寺（今の勝善寺）が完成し、盛大な落成の式が行われることになりました。
いろいろな造花にかざられた新しいお寺には、領主をはじめ、村々の名主たちが集まってきました。
木立の中の鐘楼では、朝、早くから村びとの手で、ゴーン、ゴーンとよるこびの鐘がつかれ、式は、天正屋敷の老師を迎えることから始まり、浴道には、一目、老師を見ようと、黒山の人だかりで、大いににぎわいました。

きらびやかな行列が、やっとお寺につくと、今まで晴れていた空が急に暗くなって、ポツン、ポツンと雨が降り出してきました。遠くの雷鳴が、しだいに近くなってきました。
パツと、強い稲妻が、縦に横に走ったかと思うと、人びとは、天のさけるような、はげしい音を聞きました。その時です。
「石だ、石だ。石が空から降ってくる。」
誰かの叫び声と同時に境内を逃げ回る人びとの上へ、岩のような大きな石が、うなりを立てて、次つぎに落ちてくるのです。

老師は本堂の縁先に立ち、手を合わせ、静かにお経を読まれますが、清らかな目には、なぜか涙が光っていました。
雷鳴は止んで、再び、木のあいだから日の光がのぞいてきました。
村人の話では、山の寺の周りの石が、老師に別れを惜しんで、あとをしたって飛んで来たのだと言われています。
今もその石は、勝善寺の裏庭に、小山のように積み上げられています。
房州の、旧富山町、勝善寺の飛び石伝説は、今も村びとたちの話題にのぼることがあります。



この岩上に「飛び石」が載っている。

「飛び石」から境内を鳥瞰する。

報恩講を支えた方々



お磨き

11月16日（月）花瓶や燭台など真鍮の仏具を磨きました。

- 石井和夫 金木庸一 狩野平造
- 川名信之 川名ふじ子 黒川敦子
- 桜井朋子 醍醐祐子 高梨教夫
- 田中昭一 谷 英郎 田村晋一
- 富澤眞知子 鱸居政男 中川克子
- 中山郁夫 西山三保子 能重隆
- 能重初雄 能重美恵子 蓮沼美栄
- 蓮沼典子 長谷川吉枝 増田征夫
- 山辺辰雄 坊守 住職



11月20日（金）準備を終え、柏市からお参りくださった浄真寺住職と一緒に、速夜法要を勤めました。

前日準備

- 青木敏夫 明石圭司 明石義久
- 足達 崇 川名喜昭 川名利幸
- 田村徹夫 能重 隆 増田征夫
- 吉本行男 坊守 副住職

お斎（食事）係

- 前日 朝倉京子 富澤るり子
- 当日 田中美枝子 田中仁子
- 能重よし子

当日役割

- 司会進行 朝倉和利
- 受付・誘導係

- 金木庸一 醍醐祐子 醍醐敏明
- 高梨敏子 堀海栄子

御懇志係

- 田中昭一 田村晋一

幕張・駐車場係

- 足達 崇 明石圭司 明石義久
- 石井和夫 重田和夫 久保田勇
- 高梨維夫 高梨教夫 田村徹雄
- 田村 本 富永昇一 中山郁夫
- 能重初雄 廣嶋敏雄

- 写真撮影 関口昌司 増田征夫
- 慰労会進行役 久保田 勇

内陣花・お供物米の寄進

（敬称は略し、アイウエオ順）
親鸞聖人前の花瓶ストレレチア（極楽鳥花）は、毎年、吉田誠様からのご寄進です。お供物用餅米は、毎年、重田和夫様からご寄進です。

法話 佐倉市了因寺住職 吉岡 康裕 師

師は、30年ほど前から親鸞聖人の御教えを首都圏の人々に伝える開教者として活動し、一寺建立を成し遂げられました。「開教」とは「開拓教化」、つまり浄土真宗という仏教を、そ

れまで縁の無かった方々に伝える活動だとお話してくださいました。それは、当寺を預かる私自身の課題でもあります。

パイプ椅子・長机の寄進



富山地区久枝の足達崇様からパイプ椅子60脚と収納の台車、長机12卓をご寄進いただきました。有り難うございます。皆さまのお志により寺は支えられています。

行事予定

- 1月2日 10時〜 修正会
 - 1月8日 9時〜 八日講十日講 親鸞教室
 - 1月14日 親鸞教室
 - 1月26〜28日 東京教区報恩講 同朋の会
 - 2月14日 14時〜 同朋の会
 - 3月8日 親鸞教室
 - 3月20日 10時〜 春彼岸会
 - 4月3日 13時30分〜 花まつり
 - 5月8日 14時〜 同朋の会
 - 5月19日 親鸞教室
 - 6月5日 9時〜 八日講十日講 同朋の会
 - 6月10日 婦人研修会
 - 6月15日 親鸞教室
 - 6月26日 8時30分〜 奉仕作業
- ※・・・以外は当寺が会場です。